

夏祭りといえば、花火大会や縁日、そして盆踊り。おはやしの音が聞こえると、どこか懐かしく、うきうき。最近なぜか盆踊りに“はまる”若者が出現しているらしい。若い世代を引きつける盆踊りの魅力って？

◇浴衣ブームが後押し ヒップホップ感覚で若者の心をつかんだ
ゆったりとしたおはやしの音色に合わせ、浴衣に身を包んだ数百人の老若男女が踊りに興いながら商店街を練り歩く。ちょうちんの明かりに包まれ、そこだけがまるで別世界のように浮かび上がって見えた。

鎌倉時代に時宗の一遍上人が広げた踊り念仏。念仏を唱えて、全国をめぐり、仏教を通じて庶民と一つになれた喜びを表したその踊りは盆踊りのルーツとも言われる。一遍上人ゆかりの遊行寺(ゆぎょうじ)がある神奈川県藤沢市で7月25、26日の2日間、地域おこしのイベントとして開かれた「遊行の盆」をのぞいてみた。

最近の若い世代は盆踊りには興味がないと思っていたが、意外にも若者の姿が目立つ。カラフルな浴衣に手作りのうちわや髪飾りで着飾って、盆踊りを楽しんでいた。

若者に聞くと、皆が「この楽しさは実際に踊ってみないと分からない」と口をそろえた。同市で日本舞踊を教える榎まいさん(37)は「一見地味で単調だが、踊り続けると無心になれ、ストレス解消になる」。会社員、喜田幸重さん(27)は、小学生以来「盆踊りは格好悪い」と避けてきたが、久々に踊った。理由は「浴衣を着る機会が欲しかったから」という。

盆踊りに参加する若者が増えた背景には、ここ10年ほど続く「浴衣ブーム」があるようだ。

若者の間では近ごろ「和」のかっこよさが見直され、着物よりも手軽に着られ、安く手に入る浴衣は特に人気だ。

大手百貨店では、春から夏にかけて若者向けに浴衣の特設売り場を開設。伊勢丹(東京都新宿区)は「年々売り場を拡大。今年の売れ筋は、女性はハートやチェーンなどの洋風柄、男性はヒョウ柄など、デザイン性の高い商品が売れている」(広報)という。

ブームに乗り、「浴衣で花火大会」のデートコースはすっかり定着した。今年も雑誌やテレビで繰り返し特集が組まれている。一方、「浴衣で盆踊り」はまだまだ一般的ではなく、花火大会のような華やかさはないが、現代の若者にとっては別の魅力があるようだ。

■歴史をひもとくと、江戸時代には出会いのチャンス満載の夏のフェスティバル、いわゆる若者用語で言う「夏フェス」だった。「遊行の盆」の運営にかかわる湘南盆踊り研究会代表の柳田尚也さん(41)によると、江戸時代の盆踊りの歌の9割以上は恋愛ソングだったというのだ。

柳田さんによると、「お盆」は、仏教行事の盂蘭盆会(うらぼんえ)と、先祖の霊を供養する日本古来の民俗行事が合わさった風習。戦や飢饉(ききん)が多かった鎌倉から戦国時代には、死者の霊を慰めるため年中踊った。江戸時代に入り平和な時期が長く続くと、先祖や新盆の霊の供養へと比重が移り、村の共同行事としてお祭り色が強まった。夏祭りを仕切ったのは「若衆」と呼ばれた15～30歳くらいの若者集団。盆踊りは若者の実力発揮の場であると同時に、年に一度だけ、大目にもてもらえる特別な日だった。もちろん色恋ざたもあり、そのはちゃめちやぶりは、明治政府の欧化政策の中で「野蛮」などとして、一時期、禁止されたほどだ。

今でも残る盆踊りの恋愛ソングの中には、若いカップルを冷やかす内容のうたも多い。

松という字は 木へんに公だよ

公(君)に木(氣)がなきや

松(待つ)じゃない

自分に振り向かなくなった恋人に恨み言を言ううたもある。

糸が切れれば バラバラ扇子

風の便りも 更に無い

盆踊りは江戸時代後期に全盛期を迎えたが、明治期の禁止期間中に膨大にあった恋愛ソングの多くは姿を消した。

■第二次大戦後、日本の復興とともに娯楽は多様化、盆踊りからの若者離れはさらに進んだ。

若い世代から長く顧みられることがなかった盆踊りだが、1980年代に米ニューヨークのアフリカ系の若者のあいだから生まれ、日本の若者の心をつかんだ、ヒップホップとの共通点があると聞いて驚いた。

「歌い手の独特の間の取り方や“ため”方が絶妙で、ラップと似ている。音楽として単純にかっこいい。今の音楽に十分生かせる」。こう語るのは、4人組の人気ヒップホップグループ、エイジアエンジニアのSHUHEI(しゅうへい)さん(30)。

エイジアエンジニアは06年、アルバム「純夏」のプロモーションの一環で、ヒップホップと盆踊りの融合に挑戦。盆踊りを本場で習おうと、徹夜踊りで有名な岐阜県の郡上踊りに参加。その魅力にとりつかれ、以来毎夏参加している。

ヒップホップとの共通点を尋ねると、メンバーのKZ(けいずい)さん(29)とZRO(じろー)さん(30)は、徹夜で踊り明かすのが現代の「クラブ」みたい▽恋愛ソングが多い▽踊り続けるのと陶酔感を味わえる▽歌や踊りのうまさで人気を競い合うのがクラブでの“バトル”のようだと挙げてくれた。リーダーのYOPPY(よっぴー)さん(30)は「少し前に大流行したパラパラは、みんなが同じ振り付けで無心で踊る。動きも複雑でなく、誰でも参加できる盆踊りと共通点が多い」と不思議がる。

■取材を進めるうちに無性に踊ってみたいくなった。小学生以来17年ぶりに浴衣を着て自宅近くの東京・巢鴨で開かれた盆踊り大会に参加した。年配者が多かったが、思い切って踊りの輪に飛び込むとあっけないくらい自然に溶け込めた。来る者を拒まない温かさとおおらかさが心地よかった。【山寺香】